

## 放課後等デイサービスわくわくクラブ自己評価表(職員)

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善点・取り組んでいる工夫など
①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。		3		長期休暇時は、公園・体育館・温水プールなどの公共施設を積極的に利用している。
②	職員の配置は適切であるか。	3			・利用人数を調整している。 ・場合によって、支援者(臨時職)を増員して対応している。
③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか。	3			・スロープ。 ・福祉車両。
④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参画しているか。		3		職員が少ないため、日頃の話し合いの中で改善している。
⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか。	3			アンケート結果により、やりやすいところから改善している。
⑥	この自己評価の結果を、事業所のホームページ等で公開しているか。	3			
⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。			3	
⑧	職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保しているか。	2	1		・県主催の研修会などに参加している。 ・今後、研修計画を作成する。
⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	2	1		
⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	3			今年度より、S-M社会生活能力検査を実施し始めている。
⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	1		2	活動内容についての共通理解ははかられている。
⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	2	1		長期休暇時は、公園遊びやプール遊び、陶芸教室などを行う。子どもの課題に応じて買い物活動も実施。
⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか。			3	
⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか。	2	1		長期休暇時は、スピーチや集団遊びの時間をとっている。
⑮	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。		3		毎日、支援のうえで気を付ける点や送迎時間について打ち合わせをしている。
⑯	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。		3		子どもの支援について気になったことや、共通理解が必要なことについては、随時、職員間で話をしている。
⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	2	1		
⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか。	1	2		多くの利用者の方と面談の時間をとり、丁寧なモニタリングができるようにする。そのために、モニタリングの時期を分散させたり、職員で業務を分担したりすることを今後試みる。
⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか。	2	1		
⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	3			
㉑	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	3			

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	改善点・取り組んでいる工夫など
②②	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所との間で情報共有と相互理解に努めているか。			3	
②③	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1	2		市内にある相談支援事業所(雪樺の舎)が、高卒後の移行支援の核を担うことになっている。月ヶ岡特別支援学校の高等部卒業生を中心に、18歳以降のサービス事業所に今後より積極的に情報提供していく。
②④	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。			3	
②⑤	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか。			3	
②⑥	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3			
②⑦	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか。		1	2	ペアレント・トレーニングに限らず、保護者が研修できる機会を今後つくっていけるよう検討する。
②⑧	運営規定、支援の内容、利用者負担について丁寧な説明を行っているか。	3			
②⑨	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	3			
③⑩	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか。	1	2		(感染症拡大防止に配慮しつつ)保護者同士が話し合える場・情報交換できる場を今後よりつくっていけるようにする。
③⑪	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。			3	現在のところは苦情は認められないが、苦情(要望)があった場合には対応マニュアルにもとづいて対応をはかるほか、職員を「苦情相談対応研修会」に参加させるなどして対応技術を学べるようにする。
③⑫	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	3			
③⑬	個人情報に十分注意しているか。	2	1		
③⑭	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3			外国出身の保護者については、個別支援計画書を英訳して配布した。
③⑮	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。			3	
③⑯	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか。	3			
③⑰	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っているか。			3	年度内に実施予定。
③⑱	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	1	2		年度内に実施予定。
④⑰	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得たうえで、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	1	1	1	現在は対象となる児がいないが、対象児がいる場合は「障害者福祉施設等における障害者虐待の防止と対応の手引き」にもとづき対応を行う。
④⑱	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がなされているか。	1	1	1	対象児については、緊急対応のための内服薬を預かっている。
④⑲	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか。			3	ヒヤリハット報告書を作成し、事故に至る以前の出来事についても、状況の記録・再発防止策の検討を行う。